

1 総括

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に変更となり、事業所全体の雰囲気もコロナ禍前の状態に戻りつつあると感じているが、マスク着用、消毒、換気等の基本的な感染対策は継続して行った。コロナ等の感染症罹患者はあったものの事業所内での感染拡大に至ることはなく、安堵しているところである。しかし、5年度は誤薬、怠薬、誤嚥、職員の過失による器物破損など多くの事故が起きた1年となった（幸い、大事に至った事故はなかった）。この内の多くは取り決め事項が曖昧又は決められた事項を遵守していないことが原因で発生しており、危機管理に関する事業所全体の認識の甘さが浮き彫りになったと感じている。再度、全職員で遵守事項の確認を行い、再発防止に取り組んでいるところである。

事故を除けば、概ね順調な活動が行えたといえるが、一方で、家族の高齢化等による一人暮らし、グループホームやショートステイの利用など、現在や将来の生活に関する相談が増えている。事業所での活動の充実のみでなく、地域生活を続けるための住まいや支援体制の確保等生活全般を視野に入れた支援が益々重要になってきており、事業所としても積極的に関わっていく必要性を感じている。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-5
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 50人
- 6) 利用現員 72人（令和6年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員
管理者 1名
サービス管理責任者 2名（常勤換算1.2）
職業指導員 6名（常勤換算5.3）
生活支援員 11名（常勤換算9.3）
目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）

職員グループ別内訳

・あかしあグループ

- 職業指導員 3名（常勤換算2.3）
- 生活支援員 4名（常勤換算3.6）
- 目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）

・みどりグループ

- 職業指導員 3名（常勤換算3.0）
- 生活指導員 7名（常勤換算5.7）

3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

生き生きと働ける職場
日中活動の保障
豊かな生活の支援
個別支援計画に基づいた計画的な支援
安心できる将来への支援

5 実施事業

《あかしあグループ》

1) 就労支援事業

- (1) 傘の値付け
- (2) ダイレクトメール封入、封緘、シール貼り
- (3) 古着の値付け
- (4) 箱の組み立て
- (5) 小平市報の折込
- (6) 公園清掃
- (7) 神社清掃
- (8) 教会のトイレ清掃 (令和6年1月より実施)
- (9) 事務封筒製作
- (10) 緑化推進事業
- (11) タイルをレールに張る建築資材製作

2) 生活支援事業

- (1) 夕方生活支援事業 (令和4年8月より再開)

3) 行事

(1) 年間計画

- | | |
|-----|----------------------|
| 9月 | 所沢サクラタウン散策 |
| 11月 | 一泊旅行 (栃木県那須方面) |
| 12月 | 忘年会 (びっくりドンキー 立川砂川店) |
| 1月 | 初詣 (小平神明宮) |

(2) その他

- | |
|------------|
| 喫茶 (月1~2回) |
|------------|

4) 日 課

開所・送迎	8:30~9:40
朝会	9:40~9:50
準備	9:50~9:55
作業	9:55~10:50
休憩	10:50~11:00
作業	11:00~12:00
昼食	12:00~13:00
作業	13:00~14:00
休憩	14:00~14:10
作業	14:10~15:10
片付け	15:10~15:15
終礼	15:15~15:20
送迎・清掃	15:20~16:20
作業点検、記録等	16:20~17:00
職員打ち合わせ	17:00~17:30

《みどりグループ》

1) 就労支援事業

- (1) ポスティング作業
- (2) 古着の値付け
- (3) 箱の組み立て
- (4) マンション清掃

- (5) 事務封筒製作
- (6) 緑化推進事業
- (7) 空き缶つぶし
- (8) ダイレクトメール丁合、封入、封緘、シール貼り
- (9) 公園清掃
- (10) 資源回収
- (11) タイルをレールに張る建築資材製作
- (12) おもちゃの袋詰め作業 (令和5年7月より実施)

2) 生活支援事業

- (1) 生活支援プログラム (週3日実施)
- (2) 夕方生活支援事業 (週2日実施)

3) 行事

(1) 年間行事

- 4月 永年勤続表彰式
- 5月 小平市障がい者運動会
- 6月 室内縁日 (射的、お菓子くじなど)
- 7月 食事会 (かき氷)
- 8月 多摩六都科学館見学 (プラネタリウム見学)
- 9月 人形劇鑑賞
- 10月 秋の一泊旅行 (静岡県熱海方面)
- 11月 サコッシュ作り
- 12月 クリスマス会 (スノードーム作り)
- 1月 初詣 (大國魂神社参拝)
- 2月 節分 (豆まき会)
- 3月 ボウリング (久米川ボウル)

(2) その他

- 音楽教室 (令和5年12月より活動再開、月1回)

4) 日 課

開所・送迎	8:30~9:00
朝礼	9:00~9:20
準備	9:20~9:40
作業	9:40~10:40
休憩	10:40~10:50
作業	10:50~11:50
休憩	11:50~13:00
昼礼	13:00~13:10
作業	13:10~14:10
休憩	14:10~14:20
作業	14:20~15:10
作業片付け	15:10~15:15
終礼・お茶	15:15~15:25
送迎・清掃	15:25~16:30
作業点検・記録等	16:30~16:45
職員打ち合わせ	16:45~17:30

6 重点課題・目標

1) 活動

《各グループ共通》

(1) 安心できる環境づくりと豊かな生活の実現

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症は5類となったが、マスク着用、館内消毒、感染リスクの高い活動（カラオケ、公衆浴場の利用等）の中止など基本的な感染対策は継続した。また、歩行に不安のある方の転倒防止のための見守りや動線の確保（通路などに物を置かない等）に努め、大きな転倒の事故は起きなかった。しかし、薬に関する事故4件、誤嚥1件と利用者の体調に関わる重大な事故が多かった。幸いにも事故後の利用者の体調に影響はなかったが、薬や食事の方法の重大性を改めて確認し、支援方法の見直し、服薬マニュアルの整備などを行い、再発防止対策を全職員で確認した。

多くの利用者は利用者同士また職員との関係性も良好で、安心して日中活動が行えているように感じる。作業終了後の余暇支援では、ボウリングやDVD鑑賞等の活動を行ない、全利用者の3割にあたる24名の利用者が参加している。また、令和5年12月より音楽療法の一環である音楽教室の活動を再開した。参加利用者は6名程度であるが、久しぶりの活動に楽しそうな表情がうかがえた。

また、総括に記載のように、家族の高齢化等により一人暮らし、グループホームやショートステイの利用など現在また将来の住まいや生活についての相談が増えている。相談支援事業所や短期入所事業所などの関係機関と連携をとり、利用に結びつけることができたが、今後益々増えることが予想されこのような課題に対して相談能力向上や関係機関との連携強化など事業所として積極的に取り組んでいく必要性を感じている。

(2) 一人ひとりの社会性や能力の伸長

【成果と課題】

【1階グループ】

利用者の多くは40代以上で就業経験があり、社会経験も豊富なことから、改めて社会的ルールの学習が必要な人は若年層に多く、また、利用者の多くは身体的機能においては向上よりも維持に重点が置かれている。但し、作業においては正確性や効率性に向上が見られるなど、繰り返しや継続の重要性を感じる。

【2階のグループ】

就業経験のある利用者は少ないが、これ迄の事業所の活動等を通してルールの遵守や他者への気遣いなど集団生活において必要な社会性は多くの利用者が身に着けている。また、作業においても継続により、利用開始後数年で多くの利用者がスキルや集中力、持続力が向上している他、今年度になり、様々な場面で自発性やコミュニケーションに一段と向上が見られている（作業で必要な物を率先して準備する、資源を回収する際、「持っていきます」と一言を言うことから持ち出す等）。今年度利用者から、朝礼の出席確認や昼礼時の弁当注文の確認を行いたいと希望があり、6月より当番制にして5名が取り組み始めた。12月頃には殆どの利用者は流れを把握し、自発的に行えるようになった。

(3) 作業活動の充実

- ① 安定した作業提供
- ② やりがいを感じることでできる作業の実施
- ③ 新規作業の開拓
- ④ 利用者の作業能力の維持、向上
- ⑤ 作業収入の維持、向上

年間作業収入目標額	9,200,000円
(令和4年度作業収入見込額	9,100,000円)

- ⑥ 利用者工賃向上

月額平均工賃目標額	12,300円
(令和4年度平均工賃見込額	12,200円)

【成果と課題】

- ① 受注作業の取引先と密に連絡を取り、安定して作業提供を行うことができた。また、ダイレクメール作業の納品と資材搬入の間の閑散期（半日から1日程度）は、資源回収作業や清掃作業など他の作業を中心に行うことや、事業所内の消毒、清掃、備品の手入れ等を行い、時間の有効活用に取り組んだ。
- ② 多くの利用者が集中して作業に取り組んでおり、1日の作業終了時に「今日も一日頑張った」や「大変だったけどなんとか終わったね」など作業に対して、達成感を感じている様子が見られている。また、作業が上手く出来ず悩んでいた利用者に対して、やり易い方法を一緒に考えて提案することで、作業が円滑にできるようになったという事例もあった。
- ③ 小平市からの児童公園清掃受託を1か所増やした他、農福連携のトマトの収穫作業が月1回から月2回に増えた。また、7月に洋服の値札付け作業を受注している店から新たにおもちやを袋に入れる仕事の依頼があり、新規作業として受注した。簡易的な仕事であることから、多くの利用者が携わることができ、活動の幅が広がった。令和6年1月より月1回、カトリック小平教会内のトイレ清掃作業を受託した。利用者はトイレの清掃にまだ不慣れな様子がある。
- ④ 多くの利用者は、これまで行ってきた作業を継続して行い、作業能力は概ね維持できている。前述の記載の通り、仕事をする上で社会性が身に付いていることや作業の準備などを行う自発性などが向上している。また、継続して自助具などを使用し、作業の技術向上に向けて取り組んでいる。
- ⑤ ③に記載の作業量増加もあり、目標の収入を達成することができた。

※金額は下記の通り。

	作業収入
令和4年度実績	約940万円
令和5年度目標	920万円
令和5年度実績	約964万円
目標の達成率	約101.2%
前年度比	約24万円増

- ⑥ 月額平均工賃は前年度比で1,465円の増の10,348円となった（前年度月額平均工賃8,883円）。6年度報酬改定で東京都の月額平均工賃の算出方法が変更となり、これによると月額平均工賃は14,809円と大幅に増額することとなった。

	令和4年度 実績	令和5年度 目標	令和5年度 実績	令和5年度 実績 (東京都計算方法)
時給	177円	220円	195円	
日給	657円	883円	732円	
月給 (東京都計算方法)	8,883円 (10,288円)	12,300円	10,348円	14,809円

(4) 健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルス感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 利用者健康診断・身体測定を実施し、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健師等との連携を密にし、疾病の予防に努めるほか、機能低下への対応を行う。
- ③ 転倒防止など怪我の予防の徹底
- ④ 看護師による健康相談の実施

【成果と課題】

- ① 新型コロナウイルス感染症が5類となったが、前述のように基本的な感染予防対策を継続した。一時気の緩みからか感染対策が徹底されていない場面はあったが、注意により改善している。コロナウイルスの罹患者は数名いたものの、集団感染には至っていない。
- ② 前年度迄コロナウイルス感染症拡大のために休止していた利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。
- ③ 1) — (1)に記載のように転倒による大きな事故は発生しなかったが、今年度の新規利用者の歩行中に脱力することがあるという特性を把握しておらず、転倒する事案があった。怪我はなかったものの、改めて付き添いの徹底を図りその後の転倒は防いでいる。ヒヤリハットでは今年度35件の転倒があったが、いずれも怪我には至っていない(全年度の発生件数は27件で発生件数は増加した)。令和6年1月に利用者1名が昼食の弁当を食べた直後、喉を詰まらせ呼吸困難となった。その後、10分ほどで回復し、大事には至らなかった。その後、食事をきざみ食にすることや小さいスプーンを使用して1度に食べる量を少なるよう対応し、その後は落ち着いて食事ができている。
- ④ 法人内生活介護事業所の看護師の派遣により、1名の利用者に週3日、他1名の利用者に週1日の褥瘡治療を実施した。また、当事業所で薬に関する事故が多く発生したことから、看護師の助言を基に服薬マニュアルの作成を行った。

2) 人材育成

(1) 一人ひとりの利用者への丁寧な支援

【成果と課題】

利用者からの相談には傾聴の姿勢で不安の解消努めており、良好な関係性が築けていると感じている。また、声かけが命令口調になることや目上の利用者に対してあだ名で呼ぶことは依然みられているが、その都度注意を行うことで徐々に改善がみられている。

(2) PDCAサイクルの実施など支援スキルの向上

【成果と課題】

利用者の状況や支援の経緯をケース記録に丁寧に記載すること、また記録等を基に個別支援計画の達成状況について評価することについては全般的にその取り組みが定着しつつある。ただし、支援計画の目標に関連付けした記録がやや不足していることや評価結果が計画の目標設定に適切に反映されていない、また計画の項目が整理されていない等の課題も依然見られ、更なるスキルの向上が必要である。まずは施設長、リーダー層のスキルアップにより指導力の向上に取り組みたい。

(3) 職員のチームワークの強化

【成果と課題】

グループ内で各職員が担当業務以外に関心を持つことが前年度より増えており、必要に応じて相互に協力し合う場面が増えている。また、前年度に比べ、両グループの職員が互いに自分の所属するグループの大変さを主張する場面が減り、グループ間でも業務の相互補完が進んでいる。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、経営状態の把握に努めるほか、必要に応じて補正予算を行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表に基づき計画的な予算執行ができている。上半期は、経年劣化から冷蔵庫が故障し、下半期は、経年劣化によりリフト付き車両1台の買い替えが必要となった。そのため、冷蔵庫購入、中古のリフト付き車両購入の補正予算を行った。

(2) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

備品や消耗品においては、在庫確認により無駄な購入を防止している。また、資料の必要枚数を正確に計算し、印刷の無駄も防止できている。しかし、未使用部分の消灯やエアコンの消し忘れは依然みられている。

7 事故等報告

- 1) 5月 利用者の送迎中の車両をバックで移動させた際、距離感を見誤り、車両をグループホームの郵便ポストに擦ってしまった。怪我人等はなかった。当該職員含め、全職員へ方向転換をする際は、周囲を確認するよう周知した。
- 2) 9月 昼に利用者を短期入所事業所へ送迎した際、その利用者に食前薬があることを申し送りせず送ってしまい、服薬漏れがあった（家族から短期入所事業所に食前薬があることは伝えていなかった）。本人の体調に異常はなかった。また、この件を翌朝に気が付いた職員から施設長への報告が利用者の帰宅直前となってしまった。服薬の重要性の認識不足、また情報共有の不足が原因と考えている。

【再発防止策】

短期入所利用時は服薬について、家庭また短期入所事業所に確認を行う。

- 3) 9月 利用者が朝、通所後に服薬すべき薬の一部を服用せずに、1日経過してしまった。本人の体調に異常はなかった。朝と昼の薬を同じ場所で保管しており、服薬状況が視覚的に判別しにくく、服薬チェックリストも使用しなかったことが原因である。

【再発防止策】

ピルケースを使用し、服薬状況を視覚的に確認しやすくする。服薬シートの記入、確認を徹底する。

- 4) 10月 事業所での旅行の際、他の利用者の夕食後薬を誤って服用させてしまった。本人の体調に異常はなかった。服薬管理表と薬の入った袋に記載された氏名の確認と、複数の職員による確認を怠ったことが原因である。

【再発防止策】

- ① 服薬管理表の書式を変更し、見やすいものにする。
- ② 服薬管理表や薬に記載の氏名の確認、服薬時の複数の職員による確認など決められた事項を遵守する。

- 5) 12月 事前に準備した昼食前薬（漢方・液体状）を放置したまま職員が持ち場を離れ、気が付いた時は薬がなくなっていた。コップに入れられた状態で置かれており、他の利用者が飲んだ可能性が高いと考えられる。

【再発防止策】

- ① 利用者が服用する直前に薬の準備を行う。
- ② 複数の職員による服薬時の確認を徹底する。
- ③ 服薬マニュアルを整備、掲示し、全職員が確認できるようにする。

- 6) 12月 職員が車両を方向転換するため無断で私有地（株式会社インプレッションの駐車場）に侵入し、三角コーン等を破損させたまま、被害者へ知らせずに立ち去った。また、法人への報告も行わなかった。当該職員含め、全職員へ私有地を無断で使わないことと事故があった時は相手へ知らせること、と法人へ報告するよう周知徹底した。

- 7) 1月 利用者が昼食の弁当を食べた直後、喉を詰まらせ呼吸困難となった。10分ほどで回復したが、念のため、救急車で公立昭和病院に搬送され、検査を受けた。検査の結果、誤嚥性肺炎の可能性は極めて低いとのことだった。

【再発防止策】

- ① 当該利用者が食事をする際、おかずなどを1口サイズのきざみ食にするまた、口に物を大量に入れないよう小さいスプーンを使用する。
- ② 誤嚥の可能性のある他の利用者の内希望者（2名）に対してきざみ食を提供する。

- 8) 2月 資源物の卸し先の倉庫にて、車両をバックした際、後方にあった鉄柱に気付かず、バックドアと鉄柱の角をぶつけた。怪我人等はなかった。当該職員含め、全職員へ周囲を確認するよう周知した。
- 9) 3月 資源回収作業中の車両を駐車するため、左壁側へ寄せた際、駐車していた軽自動車の左後部を擦った。怪我人等はなかった。当該職員含め、全職員に車間距離を見誤らないよう周知した。
- 10) 3月 車両を走行中、一時停止の標識に気付かず通過し、現場にいた警察官に一時不停止の違反を受けた。全職員に標識などを注意深く見て、運転するよう周知した。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日
- 2) 開所日数
 - (1) 週開所日数 5日間
 - (2) 開所時間 午前8時30分～午後4時
 - (3) 年間延開所日数 243日間
 - (4) 平均活動時間 7時間

9 利用状況

- 1) 利用者延人員 12,634人 (前年度 11,785人)
- 2) 1日平均利用人員 52人 (前年度 48.7人)
- 3) 体験実習実人員 15人 (前年度 19人)
- 4) 体験実習延人員 70人 (前年度 57人)

10 利用者状況(令和6年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	0名		
20歳以上30歳未満	8名		
30歳以上40歳未満	19名		
40歳以上50歳未満	14名		
50歳以上60歳未満	14名		
60歳以上70歳未満	12名		
70歳以上	5名	平均年齢	46.7歳

2) 障害の状況

愛の手帳2度	11名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳3度	13名	(内身障手帳所持	2名)
愛の手帳4度	22名	(内身障手帳所持	5名、精神保健手帳所持 2名)
身体障害者手帳1級	7名	(内愛の手帳所持	3名)
身体障害者手帳2級	9名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳3級	4名	(内愛の手帳所持	1名、精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳4級	1名		
身体障害者手帳5級	3名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳6級	2名		
精神保健手帳2級	5名	(内愛の手帳所持	1名、身障手帳所持 1名)
精神保健手帳3級	4名	(内愛の手帳所持	1名)
手帳なし	2名		

3) 通所手段

送迎車利用	36名	(内3名交通機関、内2名徒歩等と併用)
交通機関利用	22名	(内3名送迎車両、内1名徒歩等と併用)
徒歩等	18名	(内2名送迎車両、内1名交通機関と併用)
家族送迎	1名	
グループホーム送迎	1名	

4) 居住状況
管内居住 58名 管外居住 14名

5) 性別
男性 56名 女性 16名

1.1 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数 154日

(2) 週平均実施日数 3日

2) 利用者（令和6年3月31日現在）

(1) 利用者数 3人

(2) 利用者延人数 201人

3) 支援者（令和6年3月31日現在）

(1) 職員 5人

(2) ボランティアスタッフ 7人

(3) 職員延人数 54人

(4) ボランティアスタッフ延人数 146人

4) 内容

(1) ウォーキング 201回

(2) プール 0回

1.2 夕方生活支援事業実施状況

1) 参加者 24名

2) 延べ 369名

3) 延実施回数 91回

4) 月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月 :	8回	29人
5月 :	8回	30人
6月 :	7回	31人
7月 :	8回	36人
8月 :	7回	34人
9月 :	8回	28人
10月 :	8回	36人
11月 :	8回	29人
12月 :	8回	32人
1月 :	7回	29人
2月 :	8回	32人
3月 :	6回	23人

5) 内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数
ボウリング	36回	144人
DVD鑑賞	13回	63人
ドライブ	12回	42人
料理	10回	59人
ヘアースタイル	8回	16人
さんぽ	7回	18人
テーブルゲーム	4回	21人
ゲームセンター	1回	6人

1 3 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1 4 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。